

平成30年度 学校評価総括表 伊丹市立南小学校

| 教育目標  |                | 『強い体にきれいな心』・温かく生き生きと学べる落ち着いたきれいな学校 ・めあてを立てて最後までやりぬく広い心とやさしい気持ちを持つ子 ・教えるプロとしての自覚を持ち資質を向上させる教職員  |  |  |       |   |  |  |
|-------|----------------|--|--|--|-------|---|--|--|
| 重点目標  |                | ①基礎基本の定着を図る②ことばの教育を推進する③外国語学習を進める④自他の人格を尊び、思い合う心を育成する⑤自然体験、社会体験、勤労体験などを通して、社会性や倫理観などを身につける⑥気づき合い、認め合い、喜び合う学習を創造する⑦自己の体位、体力を自覚し、心身共に健康な生活を目指す力を育成する⑧基本的生活習慣の定着を図る⑨食育を推進する |  |  |       |   |  |  |
| 項目    | 重点項目           | 具体的施策  | 達成目標   | 自己評価   | 成果と課題 | 改善策   | 学校関係者評価  |  |
| 学力の向上 | 基礎・基本の徹底と授業改善  | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的、基本的な知識・技術を習得する</li> <li>授業力のさらなる向上と授業の改善をめざした校内研究(算数)を実施する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の小テスト、算数の振り返りテストを定期的実施する。単元ごとの振り返りテストも実施する。</li> <li>算数の研究を進める中で、音読計算に全学年で取り組んでいく。</li> <li>校内研修として全ての教員が1回以上授業公開を行い、授業改善に努める。</li> <li>授業時数増加に備えて、音読交流会、南フェスタ、隠し芸大会などの行事を削り、授業時数を確保する。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の小テスト、算数の振り返りテストの正答率が平均90%以上になる。</li> <li>全ての教員が年1回以上授業を公開する。</li> <li>「授業がわかりやすくて楽しい」と回答した割合が85%以上になる。</li> <li>「先生は、教え方に工夫している」と回答した割合が85%以上になる。</li> </ul> | B     | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や算数の音読計算による取り組み等を通して基礎基本に力を入れて指導できている。また、算数では校内研究の取り組みで、児童が主体的に取り組める教材研究に取り組んだことにより、教師の授業力改善も見られた。</li> <li>4. 5. 6年児童アンケートでは、「授業がわかりやすい」が94%(4年)85%(5.6年)と、「先生は教え方に工夫している」が96%(4年)87%(5.6年)である。保護者アンケートでも「基本的な学力がついてきている」93%(1～4年)、91%(5～6年)である。しかし、高学年になるほど学力差が大きくなるので、基礎学力の定着は今後も大きな課題であるが、授業時数に余裕が少なく、復習や補習に充てる時間を充分にとることが難しい</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力向上に必要な復習や補習に充てる時間を確保するためにも、さらなる行事の精選が必要である。また教材研究、授業改善に力を入れる。</li> <li>研究では、引き続き算数科で行い、「わかった！できた！と実感できる授業づくり」に取り組む。</li> <li>新1年生以外の在校生の家庭訪問を全家庭目視での確認とその旨のポストイングのみとし、通常時間割りを行った後に行うことで、午後からの授業数カットをなくす。同様の理由で、オープンスクールも平日開催とする。</li> <li>朝の会をこれまでより5分早い8:25開始とすることで、8:30～8:45の朝学習時間を確保し、音読計算及び基礎学力向上のための時間に充てる。</li> <li>夏休みの宿題を、教師の手作りではなく業者ワークを使用することで、ワークの作成・製本にかかっていた時間を、教材研究などの時間に充てる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習に時間の確保のための課題をどのようにして出すのか。音読や算数の計算プリントなど毎日の習慣にしてはどうか、中学で、かけ算、割り算、小数、分数のつまずきのまま数学に入り1年生でやる気をなくしてしまう子が少ない。</li> <li>授業で、めあての提示を徹底して、中学校でもそれを徹底し、『何がわかればよいのか』『何を学ぶのか』が、視覚化して、いくことが必要と思われる。</li> </ul> |
|       | 思考力・判断力・表現力の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。</li> <li>読書活動を充実させ、語彙力の獲得を図る。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元の中で、作文・意見文の指導をしたり、説明的文章を要約する学習(字数制限)を行う。(特に高学年)</li> <li>友だちの意見を聞いて新たな考えが生まれ出せるような話し合い活動やアクティブラーニングの手法を取り入れた学習を積極的に行う。</li> <li>「本を読もうカード」を活用し、読書意欲を更に高める。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査のB問題において、平均正答率全国平均にする。</li> <li>書き込みシートや授業をの振り返りの記述に、考えの深まりが見られる。</li> <li>1ヶ月の読書目標数平均10冊を達成する。</li> </ul>  | B     | <ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査のB問題において、平均正答率が全国平均を上まわった。</li> <li>「本を読もうカード」は全校での取り組みの結果、読書量も月平均10冊以上となっている。しかし、保護者アンケートでは「すすんで読書しようとしている」の割合が67%(1～4年)52%(5～6年)と低い。学校では図書で読書に慣れ親しんでいるが、家庭で読書の時間が取られていないことがわかる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中に、研究で力を入れてきた話し合い活動やアクティブラーニングの手法を取り入れ、学習意欲を更に上げる取り組みを進めていく。</li> <li>11月に行われる市内の研究発表会に向け、教材研究等を通して、授業作りに取り組む。特に子ども同士の意見交流を大事にし、考えがつながる授業の基本スタイルの確立を目指して行く。</li> <li>図書をバーコード化することにより、管理や、貸し出し返却をスムーズにし、より児童が図書に親しみやすい環境にする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ALは、訓練の積み上げが必要かと思われるので、小学校の研究担当の先生と連携を取って、引き続きながら応用していくなど”繋ぐ”ことが出来れば良いのではないのか。</li> </ul>   |
|       | 学習意欲の向上        | <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。</li> <li>家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>各教科の単元ごとに、電子黒板や実物投影機等を使った授業を行う。</li> <li>家庭で学習する時間が低学年30分、中学年60分、高学年90分になるよう、課題を与えたり、自主的な学習ができるよう低学年では日記、中学年以上では自習学習の課題を学年で揃えて取り組ませる。</li> <li>英語の教科化に向けて、英語科指導に向けて研修を進め、活発な学習活動が進められるように取り組む。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>単元終了後のアンケート、感想等を取り、「よくわかった」が80%以上になる。</li> <li>家庭学習で、低学年30分中学年60分、高学年90分の目標時間を達成する。</li> </ul>  | B     | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習で、低学年30分、中学年60分、高学年90分の目標時間の達成は今年度も厳しかった。保護者アンケートでも74%(1～4年)、51%(5～6年)と低い。家庭学習への取り組みとして宿題の出し方の検討や家庭への啓発なども今後の課題である。</li> <li>電子黒板は、各クラスにほぼ1台設置されたことで、必要に応じて利用できている。</li> <li>今年度は英語を専科で教える先生が、英語の授業を行ったのでよかったが、そのような教師が配置されない場合の英語の授業をどうしていくのが課題である。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習については、学年で統一して課題を出していく方法や自主学習を進めていく方法に今後も継続して取り組む。学習意欲や環境が十分でない児童へは家庭との連携に根気よく取り組んでいく。</li> <li>電子黒板の活用により分かりやすい授業ができている。今後もさらに多くの教科で有効に活用していく。</li> <li>英語科必修化に向けた研修や、教材のデータ化を進めていく。</li> <li>2020年度プログラミング教育実施に向けて、校内研修を実施していく。</li> <li>2019年度の3～6年生の外国語活動の時間を規定より10時間多く確保することで、2020年度全面実施にスムーズに移行できるようにする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ICTなど情報機器の活用が有効だと考えられる。</li> </ul>  |

|            |              |   |   |  |   |   |  |   |
|------------|--------------|---|---|--|---|---|--|---|
| 豊かな心・健やかな体 | 豊かな心を育む道徳教育  | ・「心の教育」を推進し、命の大切さ、相手を思いやる心、自尊心を育む。<br>・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 | ・道徳の教科化に伴い、「生命の尊重」「思いやる心」「自尊心」を重点化した授業にしっかりと取り組む。<br>・いじめアンケートだけでなく、子どもたちの日々の様子からいじめの早期発見、対応に取り組むと共に、いじめ防止に向けて仲間作りの指導に取り組む。<br>・教員のLGBTの研修を行い、人権に対して理解を深める。 | ・「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。<br>・教科制になることを受けて、計画的に教材を使って授業を進めていく。  | B | ・アンケート「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」では、93%(4年)91%(5.6年)となっている。<br>・人権参観や道徳の授業を通して、人権について学んだり、考えたりする取り組みは行っている。教科化に伴って、今後とも児童の実態に即したカリキュラム作りの検討を進める必要がある。<br>・子どもたちの日々の様子からいじめの早期発見、対応に取り組むと共に、いじめ防止に向けて仲間作りの指導に取り組む必要がある。 | ・道徳の教科化に伴い、年間計画に沿って、丁寧な指導を行うとともに、日々の生活の中でも授業での学びを活かしていくように取り組む。<br>・人権参観などの行事を通して、家庭でも考えていってもらえるように取り組んでいく。<br>・いじめ防止に向け、個性を認め合う仲間作り、傍観者を作らない、などの指導を行っていく。<br>・性的マイノリティーに関する研修を行い、教員が人権に対して理解を深めるとともに、授業も実施していく。   | 本年度から道徳が教科化実施なので、授業や評価など中学校との連携をしていきたい。   |
|            | 体力の向上        | ・「早寝・早起き・朝ご飯」を実践する児童を育てる。<br>・日常的に運動する習慣をつける。                   | ・保護者に呼びかけたり、児童への啓発活動を継続して進める。<br>・PTAと連携して「みなみんピック」を行う。<br>・「みなみんピック」や「みんなでジャンプ」等の取り組みを通して、運動量を確保する。  | ・「早寝・早起き・朝ご飯実践している」と回答した割合が85%以上になる。<br>・日常的に運動しようとする意欲が高まる。   | B | ・「早寝・早起き・朝ご飯」については、保護者は88%(1~4年)、81%(5.6年)、児童は94%(4年)79%(5年)となっている。児童の中でも、高学年が低い。高学年に入るとの生活の乱れを感じる。家庭への啓発も更に必要である。<br>・みなみんピック、みんなでジャンプ等で日常的に運動させるような取り組みは行っているが、今後も続けて更に取り組んでいく必要がある。  | ・「早寝・早起き・朝ご飯」については、学校生活の中で日々指導すると共に、保健や家庭科なども含めた授業で指導を続けて行ながら、PTAと協力し保護者へ啓発していく。<br>・今年度もみなみんピック、みんなでジャンプ等に取り組んでいるが、今後も委員会での活動などさらなる充実や工夫で、運動量の確保をしていく。  | 「みんなでジャンプ」(長縄3分間で何回跳べるか)の取り組みで、体力の向上だけでなく、仲間と気持ちをそろえてチャレンジさせている。中学校入学後すぐに行われる 林間学舎でも、長縄大会を行うので、小学校での経験を生かして南小卒業生が新クラスをリードしてほしい。 |
| 開かれ信頼される学校 | 学校情報の積極的な発信  | ・積極的に学校情報を発信する。   | ・学校だよりを月1回以上発行する。<br>・学校ホームページを週1回以上更新し、学校情報を積極的に発信する。  | ・学校だよりを月1回以上発行する。<br>・自校のホームページを週1回以上更新する。<br>・保護者アンケートにおいて「学校は保護者の願いに応じている」「学校は保護者の願いに応じている」「学校は保護者の願いに応じている」に役立っていますか。」と回答した割合が90%以上となる。 | A | 「学校は保護者の願いに応じている」の割合は94%(1~4年)91%(5~6年)、「学校便利・学年便利・ホームページなどは学校の様子を知るのに役立っていますか」の割合は、97%(1~4年)95%(5~6年)といずれも90%を超える結果となっている。<br>・学校便利・学年便利・HPの更新等を頻繁に行うことは評価されており、各家庭との連携が図られたと考えられる。今後さらに、見やすい、わかりやすい物を目指して行く。                  | 今後ともHPや学校便りを通して各家庭への連絡連携がとれるよう取り組んでいく。今後さらに、見やすい、わかりやすい物を目指して行く。   | ホームページの更新が、ほぼ毎日行われており、学校活動の様子が、保護者や地域の 方々にわかりやすく、リアルタイムに伝わっている。また、ホームページが大変見やすく工夫されている。   |
|            | 学習の場としての環境整備 | ・学習の場として子どもが活動しやすい環境を整える。                                       | ・清掃の仕方を改善し、必要な清掃用具を充実させる。   | ・保護者アンケートで「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。   | A | ・保護者アンケートの「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」の割合は98%(1~4年)97%(5~6年)となっている。大規模改修が終わっているが、今後とも学習環境を整えていくように整備が必要である。  | ・落ち着いた学習環境を維持していくために、トイレや手洗い場などの清掃の仕方をマニュアル化して全校で統一し、必要な清掃用具を充実させる。また、教室や清掃用具の整理整頓などの啓発を行っていく。   | トイレがとてきれいになり、清掃や使ひ方の徹底が出来ている。   |
| 安心・安全な学校作り | 子どもの安全対策の推進  | ・避難訓練等を通して、児童に危機対応能力を育ませる。                                      | ・火災、地震等の避難訓練(事前事後学習も含め)を実施する。<br>・年度の早い時期に保護者引き取り訓練を実施する。<br>・CAP等の学習を進める。  | ・日常生活の中で起こりうる、災害・犯罪等に対する心構えができる。<br>・保護者アンケートにおいて、「家庭でいざという時の行動の仕方について話し合っている」と回答した割合が80%以上になる。  | B | ・アンケート結果では、保護者は81%(1~4年)83%(5~6年)、児童は94%(1~4年)89%(5~6年)と、昨年に比べ大きく防災意識が高まった結果となっている。<br>・防災の避難訓練、自転車教室、CAPの研修等を年間を通して、計画的に進め、緊急時に備えることができた。しかし、昨今の自然災害などの増加から見て児童の防災意識をもっと高めるために、家庭への啓発、協力も更に必要である。                              | ・避難訓練については、緊急時の下校方法も含めて、年度の早い時期に児童に徹底できるように、安全部を中心に検討して取り組んでいく。<br>・下校時の安全体制については、児童への下校指導を徹底しながら、保護者への啓発を、PTAの協力を得ながら行っていく。<br>・登下校の安全・方法と校内での過ごし方について、毎学期始めにクラスで話し合う時間を確保する。<br>・全校一斉下校の際には、低学年と高学年で下校時間を5~10分ずらし、混雑を緩和させる。<br>・校外学習、遠足の引率の際には、できる限り管理職又は養護教諭が付き添い体制をとるようにする。<br>・休み時間に教師が廊下に立って見回りや指導を行い、廊下を走らせないことで、事故等を減らす取り組みを今後も継続して行う。 | 災害緊急時の地域の情報共有や連携について、校区が電車で区切られていることもあるので、対策を小学校と中学校が共有しておくとう良いのではないか。  |

学校関係者評価総括  
 学校は積極的に学校情報を発信し、子どもたちが落ち着いて学習する環境作りができています。また、図書バーコード化が完了し、子どもたちが本に親しむ機会が更に増えると考えられる。引き続き、基礎学力の定着を図り、家庭と連携して家庭学習の充実をさせ、学習意欲を充実させることが大切である。本年は6月に地震が発生し、防災教育・地域との情報共有の大切さを実感した。

次年度に向けた重点的な改善点  
 不測の自然災害等に備え、小中学校の連携のあり方を再検討する。  
 11月の市内研究発表会に向けて、更に研究を推進する。